

○議長 内海 猛年君

次に6番、本田議員の一般質問を許します。本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

皆様、おはようございます。6番、本田です。件名は1件です。通告書に沿って質問させていただきます。

今年3月に第9期芦屋町高齢者福祉計画が策定されました。この第9期芦屋町高齢者福祉計画は令和6年度から令和8年度までを計画期間とし、その計画期間の中心となる令和7年度には団塊の世代が75歳以上となり、高齢化社会を迎える重要な時期となってまいります。御存じのように我が国では、高齢化の進行により2025年には後期高齢者が2,000万人を突破すると言われており、芦屋町においても後期高齢者が2,400人を超え、人口に占める後期高齢者は19%を超えると予測されております。また後期高齢者の増加に伴って、要介護者や認知症の方も増加することが予測されております。

今年の3月末をもって第8期高齢者福祉計画が終了し、新たに施策の実施状況や効果を検証され、福岡県高齢者保健福祉計画や福岡県介護保険広域連合が策定する第9期介護保険事業計画との整合性を図りながら、地域包括ケアシステムのさらなる深化を図るために、第9期高齢者福祉計画が策定されたことにより、芦屋町に生まれ育った人はもとより、芦屋町以外で生まれ育った人もついの住みかとして芦屋町に住居を構え、安心した日々の生活が営まれることを望むものであります。今後さらなる高齢者の人口が増加することが予測されており、高齢者を取り巻く環境は近隣住民との関係性や自治体との問題と、課題は多岐にわたっております。

そこで計画の策定といつまでも住み慣れた地域で暮らせる町あしやを目指し、その重要な時期を迎えるに当たって実施されたアンケートで見る芦屋町の高齢者の現状から、アンケート結果に基づく現状や課題と、今後の福祉計画と地域住民の交流の場として、自治区で開催されているサロン事業のことについてお尋ねをいたします。

要旨1としまして、芦屋町高齢者福祉計画の策定について。

高齢者福祉に関する住民アンケート調査され、住民の意見の把握や反映に努めたと記載がありますが、高齢者福祉計画の策定過程において地域住民の声がどの程度反映されているのかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

お答えいたします。

高齢者福祉計画の策定に当たりまして、2種類のアンケート調査を参考としております。

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

1つは介護保険広域連合が実施しました高齢者生活アンケートです。これは65歳以上の要介護認定を受けていない人を対象としておりまして、要支援、要介護になるリスクが高い人を把握するとともに、生活機能や日常生活の状況を調査することを目的としております。アンケートは毎年実施されておりますが、対象者は芦屋町の65歳以上の人口の10分の1を無作為で抽出しております。

なお、計画策定に参考としましたアンケートは令和5年度に実施したもので、349人に対し発送しまして、回答数は176人、回答率は50.4%となっております。

2つ目は今回の計画策定のために実施した高齢者福祉に関するアンケートです。計画策定に必要な基礎データを収集・分析することを目的に実施しております。対象者は65歳以上の人1,500人を無作為に抽出しております。回答数は846人で、回答率は56.4%でした。令和5年9月末の高齢者人口が4,274人であるため、約19.8%の方の意見を聞くことができております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

一般的にアンケートの回答率の平均は3割程度と言われておりますので、半数を超える回答率は対象者の意向が十分に反映されているものと思われまます。

そこで要旨2になりますが、地域の課題やニーズについて。

高齢者福祉計画に盛り込まれた具体的な内容には、どのようなものがあつたのかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

アンケート結果を踏まえて、計画では7つの課題として抽出しました。

1つ目は健康についてです。健康について知りたいことの設定で、「がんや生活習慣病にならないための工夫」、「望ましい食生活」などの回答が多かったことから、いかにして健康づくりに意識づけを行っていくかが課題であります。

2つ目は介護予防についてです。地域づくり、健康づくり活動の設定では、「既に参加している」、「参加してもよい」など積極的な参加意向が半数を少し上回っておりますが、同数程度で「参加意向がない」との回答であるため、どのように参加意向に意識を向けるか、または自宅でできる取組をいかに普及するかが課題となっております。

3つ目に在宅生活の支援についてです。アンケートでは炊事、洗濯、掃除、ごみ出しなど身の回りのこと、外出時の移動手段のことなどに関して高齢になるほど困っているとの結果が見られました。今後、高齢者の一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯が増加することが見込まれており、今以上に日常生活の困り事の解決や介護保険制度では対応できないごみ出しなど、生活支援を必要とする人が増えてくることが予想されます。高齢者の日常の付き合いでは、「あいさつをする程度の人がいる」、「付き合いはほとんどない」といった地域での結びつきが少ない方が4割程度存在しております。そのため、地域での結びつきを強めていくことが重要でございます。また、将来介護が必要になった場合の介護意向については、「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」という意向が大きくなっており、在宅医療や介護サービスを推進することが求められております。

4つ目は認知症についてです。認知症についての不安や心配事については、「家族を含めた周囲への迷惑」、「認知症への不安」、「予防の方法」、「認知症への対応や介護の仕方」などが主な回答として上がりました。そのため認知症に関する正しい知識の啓発が必要です。また本人や家族が不安にならないよう、相談体制を充実させていくことも必要となっております。

5つ目は安心・安全についてです。回答者の2割弱、特に女性や85歳以上の高齢者の多くで、災害時に1人で避難できないなど災害時における不安を感じているため、避難場所を含めた災害に対する情報のさらなる提供を行い、災害に対する理解を深めていくことが急務となっております。

6つ目は社会参加と生きがづくりです。今後やってみたいことでは、「健康づくりや運動など体を動かす活動」、「趣味の活動」といった社会参加の充実が求められております。高齢者が積極的に社会活動や地域活動に参加することは健康づくりや介護予防にもつながります。そのため自治区や老人クラブ、ボランティア活動などの地域活動への参加促進など、高齢者の生きがづくりを進めていくことが必要でございます。

7つ目は高齢社会対策への総合的な取組です。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしている社会づくりに向けた施策として、最も重要度が高い取組としましては、「外出しやすい環境の整備」、次いで「高齢者に対する犯罪や消費者被害、交通事故防止の対策」となっているため、これらの施策の充実も図っていく必要がございます。

以上になります。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今、7つの課題をお聞きしました。その中の1つに在宅生活の支援についてがありました。在

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

宅支援は地域での支え合いが重要となる中で、課題の潜在化や孤立化が危惧されています。芦屋町ではあしたの会をはじめとする様々な住民主体の取組が進んでおりますが、町としては今後どのような形で住民主体の活動を支援していく計画があるかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

課題の3つ目でも触れましたが、地域での結びつき、互いに助け合える地域づくりを進めていくことが重要となります。そのため、住民同士の支え合いを進めるため社会福祉協議会と連携し、住民主体の生活支援の推進及び実施主体への支援を行うこととしております。社会福祉協議会に配置しております生活支援コーディネーターを中心に地域の課題を把握し、あしたの会など在宅福祉ボランティア活動を支援するほか、あしたの会が実施しているサービスの強化等を図っていくこととしております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町の高齢者の施策の向上に資することを目的として必要な基礎データを収集し、分析をされている中から、人口構造や世帯数や要介護等認定者数の項目では、人口は減少傾向で高齢化率は毎年上昇し、世帯数は横ばいで高齢者の一人暮らしが年々増加の傾向となっております。このような現状から高齢者や障害者の生活支援について、具体的な取組は何が予定をされているのかをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯が安心して生活していくためには、高齢者の生活状況や心身の状態にマッチした多様なサービスの提供が必要となります。新たな取組というよりは、現在のサービスを必要な人に的確に届けることが重要であります。

現在も実施している高齢者等配食サービス事業、介護用品給付サービス事業、高齢者等寝具洗濯サービス事業、緊急通報システム事業、救急医療キット給付事業、高齢者等住宅改造助成事業などの事業を福祉サービスガイドなどで広く周知するほか、ケアマネジャーや民生委員などに制度を周知することによりまして、高齢者宅を訪問したときなどにサービスを案内し、必要なサービスの利用につなげることとしております。

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町の高齢者福祉に関わる公的社会資源の現状はどうなっているのかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

芦屋町内には令和5年9月時点の公的社会資源としまして、芦屋町地域包括支援センターのほか、居宅介護サービス事業所が20事業所、居宅介護支援事業所が6事業所、グループホームなど地域密着型サービスが7事業所、特別養護老人ホームが2事業所、介護老人保健施設が1事業所あります。

また医療機関としましては、芦屋中央病院のほか診療所が6施設、歯科医院が4施設、調剤薬局が4施設あります。

有料老人ホームが、そのほか6施設ありまして、サービス付き高齢者住宅1施設あり、老人憩の家こちらが3か所ございます。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

住民の方にお聞きしましても、入所の際に空きがなくて待機しておかないといけないといった声はほとんどお聞きしておりませんので、必要にして十分な事業所があることが推測されます。

それでは要旨の3に移ります。アンケートの回答について。

アンケート等で見ると芦屋町の高齢者の現状から、介護の必要度についての項目からは「介護の必要度について何らかの介護が必要」は9.7%とあり、「広域連合の9.1%より若干多くなっている」とあります。この介護が必要となる方を少しでも減少させる方策は何か考えておられるのかお尋ねします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

介護が必要となる状態になることを防止するためには、その状態になる前に予防することが重

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

要でございます。高齢者の健康状態と要介護状態の間にある虚弱状況であるフレイルの状態を早期に発見し、予防することが重要であります。

対象者を把握するために毎年、介護保険広域連合が行っているアンケートを活用いたします。アンケート結果で閉じこもり、鬱、認知症などの項目に該当した要介護状態になるおそれのある高齢者を訪問することで、介護予防の勧奨を行います。また高齢者アンケートを未提出の方についても訪問し、生活状況や困り事がないか等話を伺うこととしております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

住民の将来の生活での不安を感じる項目として、令和2年の調査と比較した項目としましては、生活費や老後の備えなど、自分の健康や病気、またそれにより将来介護を必要とする状態になることなどは増加しております。この項目は人生100年時代を考えたときには、今後増加傾向が続くのではないかと考えております。町としてはどのような対応を考えておられるのかお尋ねします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

生活費や老後の備えや自分の健康や病気、またそれらにより将来介護を必要とする状態になることについては誰しもが不安に考えることだと思います。老後の備えについては町としてできることはありませんが、健康については定期的な健康診査、健康相談、健康教室などにより高齢者の健康づくりを進めてまいります。

また介護については介護が必要な状態になることを早期発見するため、先ほども説明しました介護保険広域連合が毎年実施しているアンケート調査から要介護状態になるおそれのある高齢者を把握しまして、訪問を行うことで介護予防につなげてまいります。また介護状態になることを予防するため、自治区公民館体操、いきいき昼食会、認知症予防教室など事業を推進するとともに、自宅でも介護予防ができる健康体操のDVDを作成しておりますので積極的に配布していきたいと思っております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

健康について知りたいことの項目では、「認知症の予防について」が47.9%で最も多く、前回調査よりも希望者が増えた結果となった回答になっています。回答者のほぼ半数の方が御自分の持っている知識をより以上に予防について学習したいとの要望が示された数字になっているかと思われまます。このことについて町の対応は御検討され、どのような計画をされているのかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

認知症に関する施策は、今後より一層重要になってくるものと町としても認識しております。

まずは認知症について正しく理解していただくことが重要でございますので、認知症普及啓発映画上映会や認知症サポーター養成講座を引き続き実施してまいります。特に講演会を以前行っていたんですけれども、映画上映会に変えてから参加者が増えてきておりますので、開催周知を積極的に行い、さらに参加者が増えるよう努めたいと思っております。また、認知症サポーター養成講座も出前講座の1つとして実施しています。地域の皆さんが一緒になって学習する機会を持っていただきたいと思っております。

予防については体操、食事、生活習慣改善、口腔ケア、音楽療法など様々な内容を取り入れた認知症予防教室やいきいき昼食会などを開催しております。近年は参加者も増えており、住民の皆さんの関心が高くなっていることを実感しておりますので、さらなる参加者増に向けて周知を行ってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

認知症に関する施策が近年、参加者の増加傾向となっていることをお聞きしました。これは町の担当課のたゆまぬ努力のおかげかと思えます。

次に社会参加・生きがいについてお尋ねします。

前回調査と比較して「あいさつをする程度の人はいる」が6.6%増加し、「親しく付き合っている」が5.2%減少しております。現状、自治区の加入率は減少傾向にあるかと思えますが、個人の御近所付き合いが希薄化していく中であって、地域のグループである自治区の加入率の減少となっていくと高齢者の孤立化が想定されておりますが、どのような対応策を計画されているのかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 新開 晴浩君

自治区加入率の低下という課題解決に関連して、区長や役員、組長や区民の負担を軽減することをテーマとして、例月の区長会で現在話し合いをしているところです。組長や区民の負担が軽減できれば、自治区活動における課題がかなり改善されますので、加入率の低下に歯止めがかけられると考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ぜひ加入率の低下に歯止めがかかり、自治区活動の課題が改善されることを思うわけですが、近年、地域社会の結びつきが弱まっている傾向があるかと思えます。このことが高齢者と地域住民との信頼関係や支え合いの減少につながっているのではないかと考えております。

そのような内容に焦点を当てた項目として、地域の助け合いやボランティア活動などに参加するために必要な取組と今後やってみたいことについて、地域の助け合いやボランティア活動などに参加するために必要な取組については「ボランティア活動に関する情報をもっと提供する」が増加しております。今後やってみたいことについては「特にない」が大きく増加しております。また、自治区の活動は前回調査の半数以下となっております。この内容をどう分析され、今後の計画を策定するに当たって活用されているのかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

地域活動への参加は高齢者の生きがいや介護予防につながるため、町としても積極的に様々な地域活動への参加を支援していきます。

ボランティア活動に関する情報の提供としましては、ボランティア活動センターの登録団体紹介の冊子を作成しているほか、ボランティア活動センター通信はまゆうを年4回作成し、区長会に依頼して回覧板にて町民に対するボランティア活動の周知に努めております。また広報あしやにも年4回ボランティア活動を紹介し、情報提供を行っているところです。

また、今後やってみたいことで、「特にない」が大きく増加していることは誠に残念であります。地域での見守りや孤立化を防ぐためには町民同士の交流や関係づくりが大切ですので、自治区や老人クラブなどの活動に参加してもらうよう努めたいと考えております。特に老人クラブにつきましては、広報あしやのほか敬老会で活動紹介を行うなど、今後も加入促進に努めてまいりたい



令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

と思っております。

なお、自治区の活動につきましては、区長や組長の仕事は高齢者には大きな負担であろうと感じている方が多いと認識しております。このため、先ほど環境住宅課長が申しあげましたように、組長や区長の負担が軽減できれば自治区活動における課題が改善されますので、加入率の低下に歯止めがかけられるのではないかと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

次に就労についてなんですが、働いていない理由では性別では男性が、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」が多くなっております。年齢別では全体の53.3%に該当する65歳から79歳で、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」が多くなっています。

高齢者能力開発事業については複数回答ではありますが、「知らなかった」が13.8%あり、「知っているが、登録したことはない」が73.8%と高い数字を示しております。知らなかったと答えた年齢別では65歳から69歳が最も多くなっております。このことは知っていれば登録をしたかもしれないことや登録をしていれば働いていたかもしれないにつながっていくのではないかと考えるのですが、いかがお考えかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

高齢者能力活用事業については、近年登録者が減少している現状があります。よって、広報あしやにて事業の紹介、登録者を募る記事の掲載回数を増やして、周知に努めているところでございます。

また、業務委託先である芦屋町社会福祉協議会においても勧誘を行っておりますが、登録者の増にはつながっておりません。今後は高齢者を対象としたイベント等でチラシを配布する等、さらなる周知のほうに努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

次に認知症について。

認知症についての不安や心配事として、「自分が認知症になったとき、家族を含め周囲に迷惑を

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

かけないか心配である」と回答された方が58.7%であり最も多く、次に、「将来自分や家族が認知症にならないか、漫然とした不安を感じる」が47.5%となっており、「認知症をどのように予防したらいいか分からない」が27.8%となっております。

不安なことがさらなる不安を生んでくるのではないかと考えております。町としては検討策をどのように考え、計画をされているのかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

認知症に対する不安を持つことは、年齢を重ねるに従って皆さんに生じるものだと思います。先ほども答弁いたしました。まずは認知症に関する正しい知識を持ってもらうことが重要でございます。認知症になった方がその人らしく地域で生活するためには、若い方も含め認知症を正しく理解し、地域で見守る体制をつくっていく必要があります。そのため、認知症の普及・啓発に努めてまいります。

また、町としましては、5名の職員が認知症地域支援推進員の研修を受講しまして、相談体制の充実に努めております。老人憩の家の健康相談時や高齢者宅に訪問した際など、様々な場面で相談に応じてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

安全・安心な暮らしについて。

災害時の1人での避難については、「1人で避難の必要性を判断し、避難できる」が63.1%で最も多く、「避難の必要性は判断できるが、1人では避難できない」が17.5%となっております。令和2年の調査と比較をしますと、「1人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」が2.8%から5.4%と約2倍に増加しております。このような判断ができなく、避難もできないと回答された高齢者の対応にはどのような手だてを計画されているのか、お尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

戸別受信機によっていち早く正確な情報を住民に周知しますので、判断に迷うときは指示に基づき避難していただきたいと思っております。また1人では避難することが難しい方については

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

避難行動要支援者名簿の登録を勧め、名簿を地域や民生委員に提供することで情報を共有し、地域での平常時からの見守りや関係づくりに活用してまいります。

災害時における要支援者に対する避難支援体制が地域で構築されるよう、昨年は避難訓練に自治区に参加していただき意見交換を行っております。現在、避難行動要支援者名簿の登録は、対象者1,970人中495人の25.1%となっております。個人情報でございますので本人の同意が必要になりますが、こちらの登録の重要性を今後も引き続き啓発し、登録の増に努めたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

次に介護についてですが、介護を受ける場合に受けたい介護の項目では、「自宅に居住したまま必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」が40.2%で最も高く、次いで、「分からない」が22.6%となっています。その中に自宅で介護を受けたいと思う理由として、「家族と一緒に過ごしたいから」が68.5%で最も多いのですが、前回調査時との比較では4.4%減少しており、「住み慣れた家を離れたくないから」は4.4%増加をしております。この現状はどのように分析されているのかをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

家族と一緒に過ごしたいとの意見が減少した背景には、単身の高齢者世帯が増加していることが1つ要因であると考えられます。また、終末期において自宅で療養したいという回答については、在宅医療・看護のニーズが増えてきていることを表しております。

町ではこのニーズに応え、在宅や施設におけるみとりの取組が推進されるよう、遠賀中間地域在宅医療介護連携推進協議会において効果的な取組を検証し、推進していくようにしております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

次にコロナ禍における暮らしについて。

コロナ禍の生活で困っていることで、心身の健康面との悪化を回答した方に聞いた中では、「足腰の筋力・歩く速度の低下」が67.1%で、7割近くの方が実感している回答が出ております。

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

この回答を受けた町としては、足腰の筋力・歩く速度の低下を防ぐ方法や回復させる方法などどのように計画されているのか、お尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

町としましては、フレイル対策としての介護予防事業に力を入れてまいります。具体的には、自治区公民館体操や地域のサロン事業の実施地区の拡大を目指します。また自治区公民館体操の自主運営化を推進するため、体操サポーターの育成にも取り組んでまいります。

またコロナ禍以降は外出の頻度が減少した高齢者も多いと思います。自宅においても筋力低下を防止することができるよう、先ほども答弁しましたが健康体操DVD、こちらを広く配布していきたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

先ほど来から、課長のほうからDVDを広く配布したいと2回も回答いただいておりますので、ぜひ広く配布していただけたらなと思っております。

次に高齢社会対策への総合的な取組について。

高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていただける社会づくりに向けた施策の満足度と重要度についての11項目の質問があり、満足度と重要度の相関を見ると、重要度は高いものの満足度が低い施策としては、外出しやすい環境の整備、高齢者向け住宅や移設の整備、高齢者に対する犯罪や消費者被害、交通事故防止のための対策などが上がっております。

施策の展開においては交通手段の1つでもあります、芦屋町の巡回バスの今後の在り方について検討していく記載がありますが、どのような内容で検討されていく計画があるのか、またここ数年で取り組まれたことや、今後検討し計画されている内容はどのようなものがあるのかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 新開 晴浩君

芦屋町巡回バスについては、令和4年3月に策定した芦屋町地域公共交通計画で、持続可能な公共交通の確保維持と地域住民の利用状況やニーズに沿うため、高齢者を中心として利用者の満足度を図ることとしています。そして芦屋町巡回バスの3路線化後の状況を適宜把握しつつ、既

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

存の公共交通との共存を前提とした便利さと民業圧迫のバランスに十分配慮しつつ事業を進めることとしています。

また、大学教授や九州運輸局、交通事業者代表などで構成する芦屋町地域公共交通活性化協議会において毎年事業報告を行っており、その際に御意見やアドバイスをいただき参考にさせていただいております。ここ数年の取組としては、令和2年度から芦屋コース・山鹿コースの2路線から、北コース・東コース・南コースの3路線に拡大しております。今後の計画ですが、利用者が休憩できるよう今年度は5か所のバス停にベンチを設置する予定です。

最後に、今後の検討事項ですがこれまでと同様、1周50分を基本としながら利用者のニーズに合わせ、バス停の増設や各コース内の運行ルートの変更などを適宜検討してまいります。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今お聞きしましたバス停の増設は、足が悪く、身近な距離でも歩くことが難しくなってきたおられる方にはうれしい検討事項だと思います。ぜひ、実現可能な内容で検討していただきたいのであります。

今までアンケートに基づく取組についてお聞きをしましたが、高齢者福祉計画について住民の多様なニーズに対応するための柔軟な取組については、どのように考えておられるのかをお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

高齢者福祉計画内で把握しました課題につきましては、計画において基本目標を立てて施策を展開してまいります。計画に計上していない案件が発生した場合でも柔軟な対応ができるよう、個別に都度都度検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

地域住民と町が連携をし、高齢者福祉の推進に向けた取組にはどのようなものがあるのかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

高齢者福祉も地域福祉という大きなくりの中の一つでございます。地域福祉とは、それぞれの地域において人々が安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して、地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方でございます。

本日、私、答弁した様々な町の取組は地域住民の協力なくしては達成できません。町は高齢者福祉を進める施策を提案し、実施します。高齢者の方は自分のできる範囲で構いませんので、可能な限り参加していただきたいと思っております。また、町としましては実施する施策の情報発信に努めなければならないと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

地域住民が主体となる施策としてサロン事業があるかと思えます。

要旨の4としまして、サロン事業についてお尋ねします。

現在開催されているサロン事業は、30地区全体での開催にはなっていないかと思えます。このような現状の中で開催がされていない自治区の方の中には、他の地区で開催されているサロン事業に参加されたい方もいらっしゃるかと思えます。各自治区で開催されているサロン事業を拡大し、合同で開催するサロン事業のモデル地区をつくったほうがいいのではないかと考えておりますけれども、いかがお考えかお尋ねします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

現在、サロンとして登録している団体は24団体であります。休止している団体もありますので、実際は22団体が活動しております。町としましても、このサロン事業の拡大は重要な施策の1つと考えております。

今、本田議員から提案のありました合同で開催するサロンについては、1団体から「検討している」と話が既に出ております。制度上も2つ以上の自治区での合同開催ができないものではありませんので、積極的に支援していきたいと思っております。また、ほかの自治区でもそのような要望がないのか、全サロンの代表者が集まるサロン交流会がありますのでその際に意向を確認したいと思っております。

またサロン事業の拡大については開催する側の負担もあるとは思いますが、実施回数の増加も

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

検討していただきたいと思っております。通いの場の目的は「高齢者が外出する、会話する、笑顔になる」です。世話人の方が何をするのか一生懸命考えなくても、ただ集まる自由な場所がいいと思いますので、無理のない開催方法についても、町のほうから助言を行いたいと思っております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

各自治区ではサロン事業が推進され事業展開しております。運営費として今、各自治区のサロン事業には芦屋町地域交流サロン事業補助金として年間3万6,000円、または5万4,000円の運営費補助金が交付されております。

しかしながらここ数年の物価高騰の中、今までと同額の経費では様々な準備をする際に、数年前と同等の準備ができないことが懸念されております。そこで、今後この運営費補助金については増額変更の予定はないのかについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

補助金の増額については、必要に応じて物価高騰等も考慮すべきであると思っておりますので、各サロンの意見を聞き、検討材料の一つとさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

本日は、アンケート結果に基づく町の計画や取組状況をお聞きすることができました。

現在高齢者を取り巻く問題や課題は多岐にわたって存在しております。地域社会の結びつきが弱まってきている傾向がある中、高齢者と近隣住民との支え合いが減少傾向となり、社会全体ではデジタル化が進んでおり、デジタル技術に不慣れな方は地域社会との結びつきが薄くなったことと相まってさらには情報格差が生じ、高齢者のニーズに合ったサービスの提供を受ける機会が少なくなっていることも考えられます。

サロン事業については先ほどサロン交流会を活用していただいて、各自治区の開催手法を無理のない範囲で地域に拡大され助言を行いたいとの回答もいただきましたので今後に期待しております。さらには地域社会から孤立した高齢者がないようにしっかりとアンケート結果を今後の施

令和6年第2回定例会（本田浩議員一般質問）

策の活用に活かしていただき、住んでよかった芦屋町になることを願ひまして、一般質問を終わります。

○議長 内海 猛年君

以上で、本田議員の一般質問は終わりました。